

◇ゆうゆう荻窪東館だより◇

■巻頭言 「杉並ゆかりの作家を読むサロン」講師 関建一郎さんを悼む

コロナによって、日常生活が一変しました。そのような中、関建一郎さんが5月20日に、ご逝去されたのご連絡を(6月初めに)頂きました。ご子息によりますと腰痛のための入院中に、脳出血を発症したことが原因とのことでした。お亡くなりになる数日前には、「身に何かあったら、RISAの岸様、木村様始め皆様へ、晩年における望外の幸せを頂き有難うございました」(原文のまま)とお伝えするように、ご遺言があったそうです。その言葉をお聴きし、胸が熱くなりました。お礼を言いたいのはこちらです。サロン講師以外にも、多くのご支援を頂きました。ウォーキングサロン(講師:南秀郎さん)とのコラボで「杉並文学散歩」の実施、元財界記者が語る「実業家と美術館」の講演会開催など、興味深いお話でいつも参加者を魅了しました。サロンご参加の皆さんは、ご逝去のお知らせを受けて、直ぐに「偲ぶ会」を開かれ、併せてサロンの今後についてご相談されました。参加者の一人、千坂正志さんが講師となり、サロンを継続したいとのご要望が出されました。RISAにとっても願ったり叶ったりです。これも偏に関さんのご人徳のお蔭であり、DNAは見事に受け継がれています。関さん、どうぞ安らかに眠りください。「杉並ゆかりの作家サロン」は安泰です!



故・関建一郎氏
(似顔絵)

(理事長 木村 健)



協働事業(サロン)再開後、早期に再開したサロンのうち、2サロンをご紹介します。

■フランスの現代文学を原語で読むサロン

7月11日フランス語サロンを5か月ぶりに再開しました。もう少し様子を見てからというメンバーもいて当然と思っていましたが、15人のメンバー(男女ほぼ同数/平均年齢76歳)の殆どが出席、その後猛暑の時期も含め、9月までの3か月間6回のサロンに皆さん元気な顔を出していただいています。コロナのせいで時間がたっぷりあるとのことと予習も念入りです。スタートから10年になるが、やってきてよかったと実感しています。(岸 達也)



事前申込制で10月に再開しました。

■学び直そう・世界の歴史サロン

2月以来、久しぶりの再開となりました。新型コロナの関係で、定員も20人に限定しての開催でした。今回から、今までの「大航海時代」を受けて、スペインによるラテンアメリカの植民地化と大航海時代を通じて「近代世界システム」が成立した過程、そして北米のイギリスによる植民地化についてお話ししました。次回からはアメリカの歴史について、独立戦争から対テロ戦争、トランプ政権の成立までを4回に分けてお話する予定です。(長田 正一)



(長田 正一)

■仏像の魅力を楽しむサロン

区役所から7月からのサロン再開が許可されました。再開に当たり、ご参加の皆さんはどう思われているのか6月12日、メールでアンケートを実施しました。「再開され次第、直ぐに参加したい」と回答された方が6割の16名でした。16名は新定員内でもあり、7月からのサロンを再開に踏み切りました。待ち望んでいた方々は、ゆったりしたスペースの中でサロンを楽しんでいます。参加できない方々に対し、今後どのようにフォローするかが課題です。(木村 健)



■新会員のご紹介

「杉並ゆかりの作家を読むサロン」は、講師の関先生の人柄、知識に加えて、参加者の文学の造詣も深く、人生経験も語り合うなど、大変楽しい読書会であります。関先生が急逝され、代替りの講師はおらず、サロンは消滅の危機に瀕しました。10年続いていた火を消してはいけないと考え、文学を勉強したことなく、単なる読書好きの元サラリーマンではありますが、サロンの責任者を引き受けることとなり、それを機に、地域の人々が交流するテーマと場を提供するRISAの使命に共感し、入会しました。(千坂 正志)



(千坂 正志)